

〈特集〉

環境配慮型商品の開発: 4Rの取り組み

～持続可能な社会の実現に向けて～

宝酒造では、焼酎や清酒、チューハイ、本みりんなどを製造し、ガラスびんやペットボトル、アルミ缶、紙パックなどさまざまな容器に充填して販売しています。ところが、これらの商品を販売し中身が消費された後に発生する空容器は、社会に大きな環境負荷を与えています。

このため、当社では以前からこの空容器の問題に対処するため、リデュース(減量化)・リユース(再利用)・リサイクル(再資源化)の3Rにリフューズ(発生回避)を加えた4Rの取り組みをすすめています。

今では当たり前になったステイオンタブを日本で最初に採用したり、宝焼酎「純」の容器をリターナブルびんへ変更したことは、その一例です。

この問題の解決にあたっては、特定の専門部署だけが関わるのではなく全社的な課題として関連部署が連携して取り組むこと、

そして、それを地道に継続的に取り組んでいくことが大切だと考えています。

この特集では、全社を挙げての環境配慮型商品の開発・4Rの取り組みを紹介していきます。

Refuse (リフューズ)

余分な物は買わずに、必要な物だけを買うことにより、ごみを減らす活動です。「はかり売り」は余分な容器を購入せず、必要な分だけ中身を買うという意味でリフューズにあたります。



Reduce (リデュース)

容器や包装に使う材料を減らすことで、ごみになる物を減らします。製造時の資源消費や商品輸送に伴う燃料使用の削減などの環境負荷削減効果が期待できます。



Reuse (リユース)

同じ容器を何度も使うことで、資源の節約やごみの発生を抑えます。清酒や焼酎、本みりんなどで使用されている一升びんやビールびん、牛乳びんなどのリターナブルびんは代表的なリユース事例です。



リターナブル化

Recycle (リサイクル)

使用済みの容器包装を燃やしたり埋め立てたりするのではなく、もう一度資源として再利用することです。



環境配慮型商品の開発: 4Rの取り組み

～持続可能な社会の実現に向けて～



お客様相談室

お客様相談室では、さまざまなご意見・ご提案をいただきます。その中には、容器のリサイクルやリユースといった環境に関するものもあります。皆様からいただいたこのようなお声は、容包品調達部門や商品開発部門など社内に関連部署に伝えるようにしています。いただいたご意見等は、必ずしもすぐに活かせるとは限らないのですが、「お客様の声」を適切に担当部署に伝えることで、少しでも改善が進むようにと思っています。



SCM部

(サプライ・チェーン・マネジメント): 環境に配慮した容包品等の調達

容包品の調達にあたっては、軽量化された容器やリサイクルに配慮した容包品などの情報について常に意識しています。お客様相談室への要望や他社での事例も参考としながら、より一層環境に配慮した容包品を開発するために、容包品メーカーに対して提案を行うこともあります。

HP 1: グリーン調達・4Rガイドライン

1989年

日本で初めて ステイオンタブを採用

1989年に日本で初めて、スポーツドリンク「PADI」に缶からタブ(引き金)が外れないステイオンタブを採用しました。それまでの飲み口から外れるプルタブで問題となっていた、ポイ捨てによるタブの散乱や動物のタブ飲み込み被害の防止に役立ちました。



1994年

「純」、「純」レジェンドを リターナブルびんに変更

1994年から主力商品の宝焼酎「純」、宝焼酎「純」レジェンド720mlびんをリターナブルびんに変更しました。



HP 2: 720mlリターナブルびんの推移



環境配慮型商品開発部会

環境配慮型商品の開発にあたっては、関連部署間の連携が欠かせません。このため、組織横断型の情報交換の場として、「環境配慮型商品開発部会」を開催しています。この会議には、資材調達等にかかわるSCM部、リサイクル関連の情報に接する機会の多い環境課、商品の企画・開発を担っている商品部のメンバーが集まって情報交換を行い、情報の共有化を図っています。

B:環境配慮型商品

商品部:環境に配慮した商品の企画・開発

商品部では、消費者の皆様が求める高品質でおいしい商品の企画・開発に努めていますが、あわせてリサイクルのしやすさや軽量化など環境への配慮も念頭に置いて商品づくりを進めています。その際には、お客様相談室にご連絡いただいた提案も参考にしています。

3:環境に配慮した商品開発のための指針



SCM部&工場:新規環境配慮型商品の製造試験

新しい環境配慮型商品は、従来の商品と形状や強度が異なる事があります。このため、このような商品の製造にあたっては、容包品メーカーでの性能試験や自社工場でのラインテスト、物流テスト等を行った上で、必要に応じて容包品の仕様再検討や、工場設備の改造を施します。その後、関連部署間にて試験結果の確認を行い、ようやく新しい環境配慮型商品が生まれます。



新規容包品を使用して実際に工場のラインにてテスト充填を行い、ライン上でのトラブルや積み置き保管時のトラブルが発生しないかどうかを評価します。これらの評価を総合的に検証し、新規容包品の採用可否を最終判断します。



支社:焼酎のはかり売りの新規取り扱い店舗の開拓

はかり売りは、お客様に持参していただいた容器に商品を入れて販売する、すなわち中身だけを販売する方法ですので、はかり売り店舗を増やすことは容器の削減につながります。このため、当社の焼酎のはかり売りを取り扱っていただける販売店様を増やすことを目標に掲げて取り組んでいます。

焼酎のはかり売り10周年の成果

1998年に焼酎のはかり売りを開始して以来、10周年を迎えることができました。この間に節約できた容器は、2.7ℓのペットボトルに換算すると443万本に上ります。この10年間に節約できたペットボトルの製造過程で排出される二酸化炭素量は約1,150トンにもなります。この二酸化炭素の量は、乗用車が地球を125周するときに発生する量に相当します。



1998年

酒類業界で初の「指定ペットボトル自主設計ガイドライン」に準拠したペットボトルを開発

1998年、リサイクルの効率化のために策定されたPETボトルリサイクル推進協議会の「指定ペットボトル自主設計ガイドライン」に完全準拠し、ラベルははがしやすく、取っ手は持ちやすいグリップに変更するなどしたリサイクルしやすいペットボトルを開発しました。



1998年

焼酎のはかり売りを開始

1998年から、新たな容器を使用せず中身だけをご購入いただく「焼酎のはかり売り」を開始しました。



1999年

はずせるキャップ採用

お客様の分別作業が容易になるように、本みりんや料理用清酒に「はずせるキャップ」を採用しました。



2004年

飲み物容器のリサイクル啓発絵本「TaKaRaリサイクルロード」を作成

2004年、NPO法人日本環境倶楽部と共同で飲み物容器のリサイクル啓発絵本「TaKaRaリサイクルロード」を作成しました。



環境配慮型商品の開発: 4Rの取り組み

～持続可能な社会の実現に向けて～

環境課:4Rの取り組みの情報発信

宝酒造では、リデュース(減量化)・リユース(再使用)・リサイクル(再資源化)の3Rにリフューズ(発生回避)を加えた4Rに取り組んでいます。この4Rの取り組み内容を、エコプロダクツ展やアースデイなどの環境イベントや市民イベントで紹介するようにしています。また、3R関連の講演会やパネルディスカッションにも参加しています。当社の4Rの取り組みに対する率直なご意見をいただける貴重な機会ですので、今後も積極的に出展、参加し、コミュニケーションを図っていきたくと考えています。



環境フォーラムきょうとの様子

環境フォーラムきょうと

2009年3月、京都市等が主催する「環境フォーラムきょうと」に出展しました。このイベントは、資源循環型社会へ転換を図るためにごみと資源についてみんなで考えることを目的として開催されたものです。環境配慮型商品を展示し4Rの取り組みを説明した当社のブースにも多くの方がお見えになり、たくさんのご意見やご質問をいただきました。

エコプロダクツ2008

国内最大規模の環境展である「エコプロダクツ展」に出展し、10周年を迎えた「はかり売り」を中心に、当社の4Rの取り組みを紹介しました。紹介後には、環境クイズを行い、正解者には酒パックをリサイクルした景品をプレゼントしました。



エコプロダクツ展の様子

2007年

業界初!清酒の外装フィルムに 生分解性プラスチックを採用

2007年、清酒の外装フィルムにトウモロコシのでんぷんを原料とする生分解性プラスチックを業界で初めて採用しました。



全社を挙げてみんなで取り組んでいます!



— 支社 —



— 工場 —



— お客様相談室 —



— 商品部 —



— 環境広報部 —



— SCM部 —